

こうざ えもんつうしん 平成26年4月27日
講左衛門通信 第20号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114

『講左衛門さん、今日は、東円寺に残されている版木「忍野八海再興絵図」についてでますん。この絵図は、何のために作られたものでますん?』

『この絵図は、今でいう観光案内パンフレットじゃよ。この絵図を見れば、どこにな

にがあるのか一目で分かるようになっておるんじゃ。例えば、現存している原の家にある大手引き石の石碑は、絵図では現在と異なった場所に描かれておるんじゃが、この石碑の絵が、縮小されたように正確に書かれておるんじゃよ。石碑ばかりではなく、様々な意味で、この絵図は素晴らしいんじゃ。原の家は、昔、茶店をしていたんじゃ。茶店のあった場所は、旧鎌倉街道と中道との交差点、現在の北富士演習場の入り口あたりで、絵図にも書かれておる。原の家の言い伝えを聞くと、現在の場所に家を建てる時、茶店のあった場所から、壊れた石碑を持ってきたそうじゃ。石碑をよく見ると、斜めにひび割れておるんじゃよ。当時、その石碑を移してくれていなければ、現在に残らなかったかもしれんな。大手引き石は、3か所書かれておるんじゃが、2か所の石碑は無くなってしまったんじゃよ。』

『それは、すごい話でますん。その他には、何が書かれているでますん。』

『なぜ?忍野八海が、北斗七星の形をしていると言われるようになったのか?それは、絵図に「右は北斗星の形象なり」と書かれてあるからじゃ。また、富士講の八海信仰の池の中で、あまり知られていないのが、明見湖なんじゃが、「忍野八海再興絵図」には、明見湖が描かれている貴重な絵図なんじゃ。この絵図は、様々な意味から貴重な資料と考えられたから、富士山世界文化遺産の構成資産として忍野八海が信仰の池と認められたんじゃ。イコモス(ユネスコ)に提出した

資料には、「忍野八海再興絵図」が記載されているんじゃ。』

『「忍野八海再興絵図」には、八大竜王や池の形状も書かれているでますん。絵図についても、もっと勉強が必要でますん。これからも、しっかり語り継いでいかななくてはいけないでますん。』

『そうじゃな。語り継いでいくことが大切なんじゃ。次回は、世にも不思議な石碑発見の話をしようかのう。』

『世にも不思議な石碑発見とは、どういうことでますん。』

『東円寺には、元八湖再興時の名簿が残っておるんじゃが、身延町の方々の名前も多く記載されておるんじゃ。平成16年身延町で石碑が発見されたんじゃ。その後、それはテレビドラマに負けないドラマがあったんじゃが、その話をしようと思っておる。』

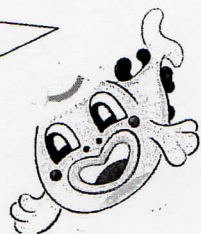
『なんだか、とても気になる話でますん。楽しみにしているでますん。』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でますん..



ふじのたいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達

(先達とは富士山案内責任者)

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定